

A watercolor illustration of a Buddhist monk with a shaved head, wearing orange robes, sitting in a meditative posture on a grassy hill. He is positioned to the left of the frame, leaning against the trunk of a large, leafy tree. His hands are resting in his lap. To his left, on the ground, is a small, dark, round container with a brown strap. The background features rolling hills, sparse green bushes, and a soft, hazy sky. The overall style is gentle and contemplative.

Vajirāsuttam

「ヴァジラー経」

(『相応部』 5-10)

—有情（生き物）とは—



Sāvattthinidānaṃ.

サーヴァッティーでのことである。

Atha kho vajirā bhikkhunī pubbaṇhasamayam nivāsetvā
pattacīvaramādāya sāvattthim piṇḍāya pāvisi.

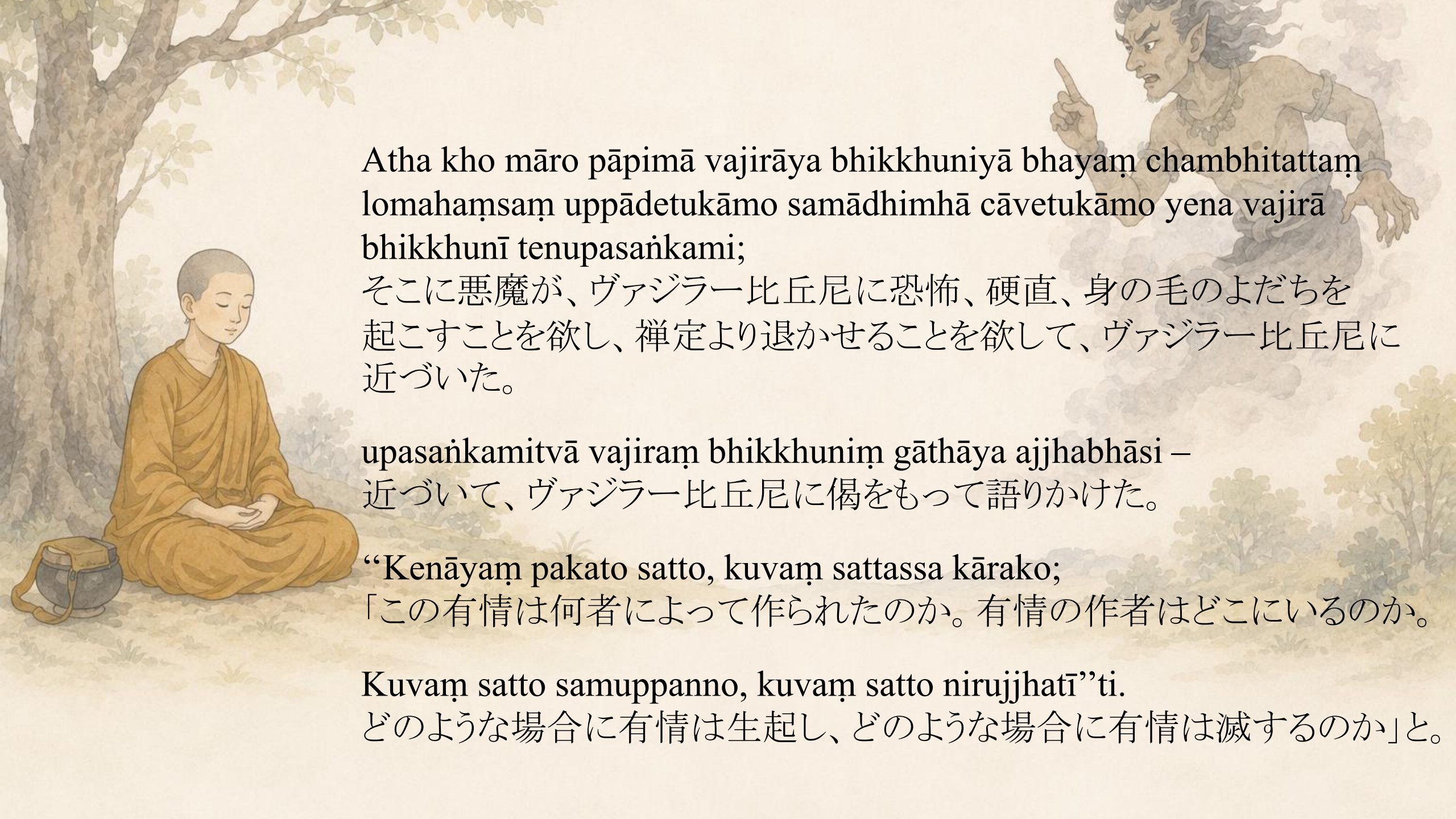
ときに、ヴァジラー比丘尼が、午前中、內衣を付け、
鉢と衣をもってサーヴァッティーへ托鉢に入った。

Sāvattthiyam piṇḍāya caritvā pacchābhattam piṇḍapātapatikkantā yena
andhavanam tenupasaṅkami divāvihārāya.

サーヴァッティーで托鉢を行じ、食後、施食より退いて、
昼住のためアンダ林へ近づいた。

Andhavanam ajjhogāhetvā aññatarasmim rukkhamūle divāvihāram
nisīdi.

アンダ林へ入って、とある木の根元で昼住をなすべく坐った。



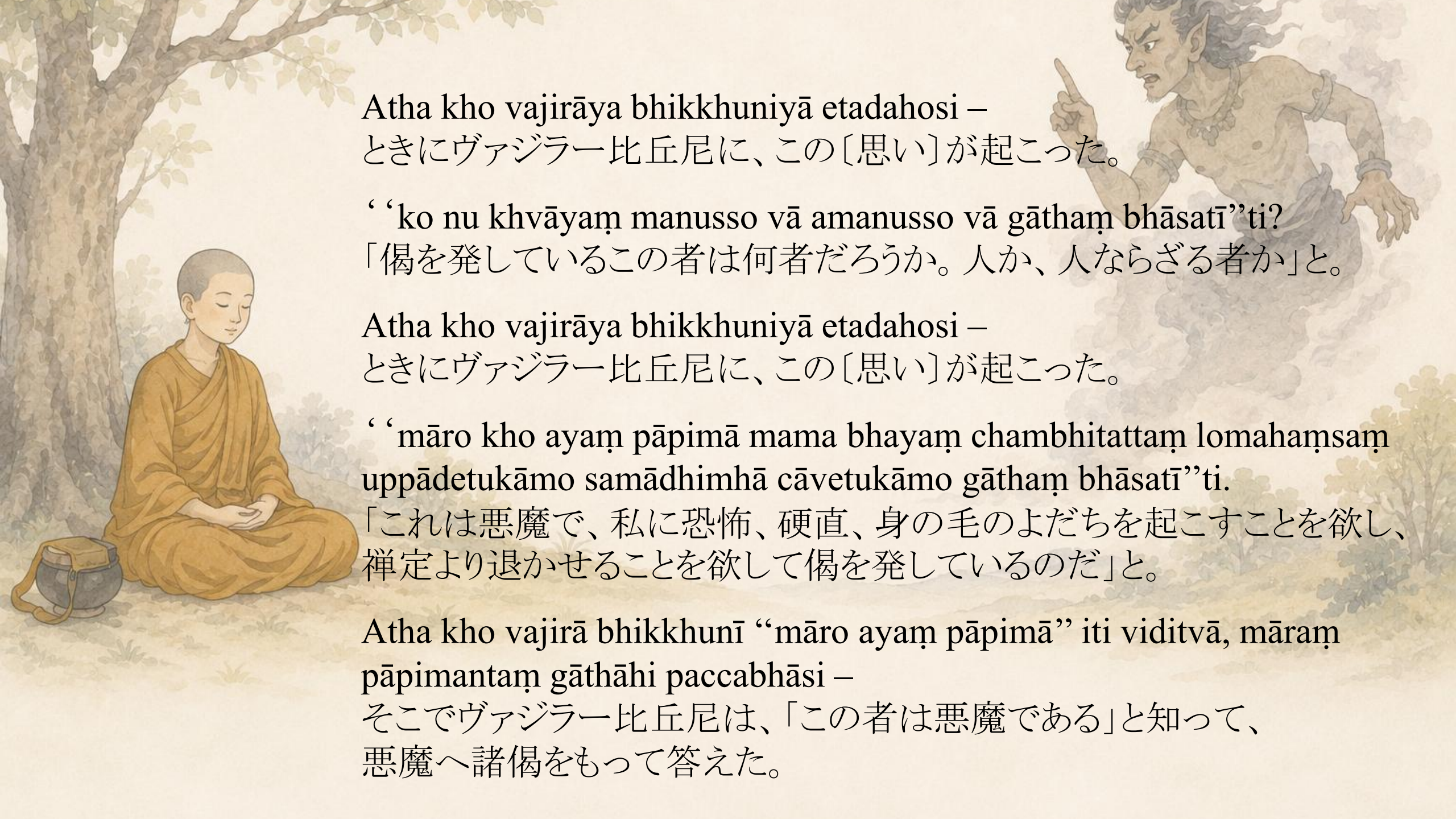
Atha kho māro pāpimā vajirāya bhikkhuniyā bhayaṃ chambhitattaṃ lomahaṃsaṃ uppādetukāmo samādhimhā cāvetukāmo yena vajirā bhikkhunī tenupasaṅkami;

そこに悪魔が、ヴァジラー比丘尼に恐怖、硬直、身の毛のよだちを起こすことを欲し、禅定より退かせることを欲して、ヴァジラー比丘尼に近づいた。

upasaṅkamitvā vajiraṃ bhikkhuniṃ gāthāya ajjhabhāsi –
近づいて、ヴァジラー比丘尼に偈をもって語りかけた。

“Kenāyaṃ pakato satto, kuvam sattaṃ kārako;
「この有情は何者によって作られたのか。有情の作者はどこにいるのか。

Kuvam satto samuppanno, kuvam satto nirujjhatī”ti.
どのような場合に有情は生起し、どのような場合に有情は滅するのか」と。



Atha kho vajirāya bhikkhuniyā etadahosi –
ときにヴァジラー比丘尼に、この〔思い〕が起こった。

‘‘ko nu khvāyaṃ manusso vā amanusso vā gāthaṃ bhāsatī’’ti?
「偈を発しているこの者は何者だろうか。人か、人ならざる者か」と。

Atha kho vajirāya bhikkhuniyā etadahosi –
ときにヴァジラー比丘尼に、この〔思い〕が起こった。

‘‘māro kho ayaṃ pāpimā mama bhayaṃ chambhitattaṃ lomahaṃsaṃ
uppādetukāmo samādhimhā cāvetukāmo gāthaṃ bhāsatī’’ti.
「これは悪魔で、私に恐怖、硬直、身の毛のよだちを起こすことを欲し、
禅定より退かせることを欲して偈を発しているのだ」と。

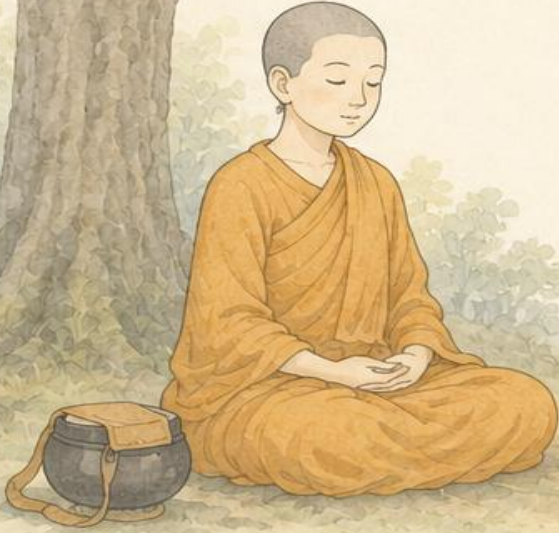
Atha kho vajirā bhikkhunī ‘‘māro ayaṃ pāpimā’’ iti veditvā, māraṃ
pāpimantaṃ gāthāhi paccabhāsi –
そこでヴァジラー比丘尼は、「この者は悪魔である」と知って、
悪魔へ諸偈をもって答えた。

“Kim nu sattoti pacesi, māra diṭṭhigataṃ nu te;
「何を『有情だ』と信じているのか。
悪魔よ、そなたには悪見がある。

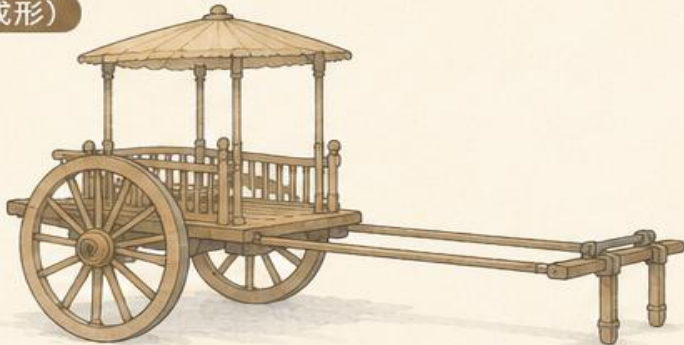
Suddhasaṅkhārapuñjoyaṃ, nayidha sattupalabbhati.
これは単なる諸行の集積であり、ここに有情は得られない。

“Yathā hi aṅgasambhārā, hoti saddo ratho iti;
あたかも、部品の集起より『車』という語がおこる、

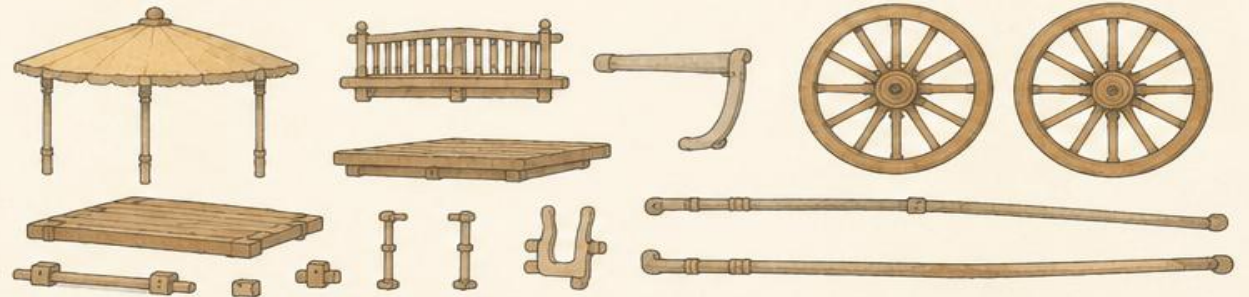
Evam khandhesu santesu, hoti sattoti sammuti.
そのように、諸蘊があるとき、『有情』という仮名がおこるのである。



車（完成形）



車（部品をばらした図）



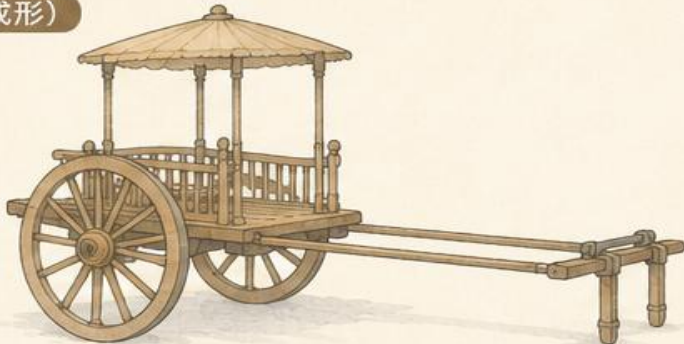
‘‘Dukkhamēva hi sambhoti, dukkhaṃ tiṭṭhati veti ca;
苦なる〔諸蘊〕のみが発生しているのであり、
また苦なる〔諸蘊〕が持続し、消失しているのである。

Nāññatra dukkhā sambhoti, nāññaṃ dukkhā nirujjhatī’’ti.
苦なる〔諸蘊〕以外のものが発生しているのではなく、
苦なる〔諸蘊〕以外のものが消滅しているのではない」

Atha kho māro pāpimā ‘‘jānāti maṃ vajirā bhikkhunī’’ti dukkhā
dummano tatthevantaradhāyīti.

そこで悪魔は「ヴァジラー比丘尼は私を知っているのだ」と苦しみ、
落胆し、そこから消失した。

車（完成形）



車（部品をばらした図）

